

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	静岡県内地域方言の社会言語学的研究（2）				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学研究科・教授	氏名	長野 明子
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学研究科・教授	氏名	長野 明子

講演題目
静岡方言を特徴づける語彙とその特徴について
研究の目的、成果及び今後の展望
ことばはヒトの生物学的な能力であると同時に、そのことばが話される地域の風土・文化・歴史の結晶でもある。後者の意味でのことばを探究するため、静岡県のことばを特徴づける言語項目（音声、語彙、構文にわたる言語表現のこと）について、学部学生の指導も交えながら研究を実施した。本稿では取り扱った言語項目のうち、語彙について報告する。 日本の各地域には『〇〇方言辞典』と銘打つご当地方言集があるが、ある語彙項目がどこの方言かを判定するのは思うほど容易ではない。『日本方言大辞典』（小学館）などを参照すればわかるように、ほとんどの方言語彙は、静岡県や山梨県といった現行の行政区画より大きな範囲で分布しているのが一般的だからである。また現代では多くの伝統的方言形が衰退し、共通語化が進んでいるため、語彙に基づく現代の方言区画は大きく東日本と西日本の2つに分かれるのみという研究結果もある（井上史雄 2001『計量的方言区画』）。ただ、井上のいう区画は岐阜県と長野県の間にある「東西方言境界線」で分けられるとされ、静岡県は西端でこれに接している点が本県の重要性である。ことばの分布は壁で仕切られるようなものではないので、静岡県においては東日本の語彙と西日本の語彙が競合したり、共存したりすることが多いだろうと予測される。これは今回の研究でも確認された。 次に、本県ならではの言語項目はあるだろうか。かつては「俚言」とも言われることばが多くあったが、井上（2001）の研究結果は、地域固有の語彙項目が少なくなりつつあることを示している。その中で静岡県（とその近辺）に固有のことばが見つければ、学術的に有意義であるだけでなく、本県を紹介する際の宣伝材料として使うことができよう。本研究では県内出身者からも県外出身者からもデータをとることができる場所として「駅」に注目し、2023年度以来県内や神奈川県駅の駅において、対面での聞き取り調査を実施している。今年度は2025年11月9日にJR浜松駅・富士駅で、同16日に静岡駅でこの調査を実施した。ゼミで事前に調査する語彙を精選し、①動詞「そっとく」「たこる」、②形容詞「しょんない」「ぶしょったい」、③名詞「いちゃもん」「せんひき」「舌べろ・舌べら」、④接続詞「だもんで」の使用頻度・認知度について調べることにした。草薙駅でプレ調査を行ってから本調査を実施した。浜松・富士・静岡の各駅で、日本語母語話者に同意を求めたうえで協力に賛同してくださった方々から語彙使用についての聞き取り調査をした。その結果10代から80代までの幅広い年齢層の男性175名、女性201名の合計376名からのデータを収集することができた。それを分析した結果、静岡の方言として特に有望なのは「舌べろ、舌べら」であることが判明した。この語彙項目は複合、等に等位複合という操作で作られたものであり、位相の異なる同義語が結合されている点でも興味深い。また、「舌べろ」という形と「舌べら」という形があり、これらは無作為に分布しているのではなく、県内での地域と使用域が関連していることもわかった。今後も調査を継続しこれらの点について研究を深めたい。